



Future

未来のトップアスリート

文＝澤田 淳一 写真＝上村 公悟



自転車

小原 乃亜

NOA OBARA

おばら・のあ 2002年10月生まれ。岩手県北上市出身。市立南中一県立紫波総合高一八戸学院大2年。今季は自転車の全国学生2大会で女子スプリント優勝。身長153センチ。オフの過ごし方は「世界選手権などの動画を見るか、(睡眠で)体力回復に*全集中。!」。

競技者としては小柄だが、レース中に風の抵抗を極力受けないような姿勢「エアロフォーム」を長く維持できる強靱なフィジカルが武器。自転車の女子短距離種目で将来有望なアスリートの一人が小原乃亜(20) 八戸学院大2年だ。「必ず五輪に出る。妥協せずに競技に取り組んでいく。日々の練習にも熱がこもる。」

岩手県北上市出身。中学3年時に家族でロードバイクに乗り始めて、自転車での風を切る喜びを知った。「競技としての自転車を本気でやりたい」と、同県の名門・紫波総合高に進んだが、2、3年時は新型コロナウイルス禍で力試しの機会は次々と失われた。不完全燃焼のまま競技を終えようとしていた矢先、八学大から誘いを受け、進学を決断。高校最後のレースだった全日本ジュニア選手権女子ケイリンでうれい日本人一のタイトルを手にして有終の美を飾った。「トレーニング施設が整い、バンクも近くてほぼいつでも使える。地方大学だけど、最高の環境で、競技中心の生活を送る。」「手抜きをしないとモヤモヤする性格」が成長の原動力。三浦康高監督の指導や生理学の教員の助言を受けながら、スティックにパワーアップに努める。

今季は全日本学生選手権(7月2、3日・静岡)と全日本大学対抗選手権(9月1、3日・鹿児島)の2大会で、女子スプリントV。成果を出したが、悔しい思いも味わった。今秋の国体(栃木)ケイリン種目決勝では同走のプロ選手の巧みなレース運びの前に進路を確保できずに惨敗。「本気で(ペダルを)踏めないままレースが終わって悔しくて…。流れの中でいいコース取りをしていく大切さを学んだ」

来季は一線級の選手がそろった全日本トラック選手権で上位に入り、ナショナルチーム入りを目指す。大学卒業後はプロ入り、2028年ロサンゼルス五輪出場を夢を思い描く。「家族をはじめ応援してくれる人への恩返しのためにも頑張りたい」